

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦
 オートポリス
 2017年5月12日

予選 観客:3,650人 天候:晴れ

全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦が九州のオートポリスで開催された。熊本地震の影響でサーキットの周辺は、いまだに復興半ばという状況だが、サーキットはいち早く施設の修復が行われ、今回の大会を迎えてくれた。初夏を思わせる天候に恵まれた予選セッションにおいて、中嶋一貴が Q2 に進出したがアタックの最終周でスピンしてしまい 14 番手。ジェームス・ロシターは、Q1 でシフトダウンの時にミスをしたこともあり、Q2 に進出できず、16 番手から決勝をスタートする。



- 金曜日に行われた練習走行で、ロシターはまずまずの走り出しをしたが、中嶋は新たに試したセットアップの方向性が悪く、下位に沈む状況だった。
- 予選日の午前中に行われた練習走行では、ソフトタイヤを使ったロシターがトップタイムをマーク。中嶋は依然としてグリップ不足に苦しみ、19 台中 18 番手。
- Q1 は、メディアムタイヤのみの装着が義務づけ。予選に向けてセットアップを変更した中嶋に光明がさしはじめて 13 番手で Q1 を突破。しかし、ロシターは、シフトダウン時にミスをしてしまい、またメディアムタイヤとのマッチングもよくなり Q1 敗退となってしまった。
- Q2 以降はソフトタイヤの装着が許され、Q2 突破に向けてアタックをかけた中嶋は 1 コーナーでミスをしてしまい、再度アタックをかけた次の周に第 3 セクターでスピン、タイム更新できずに Q2 を突破することができなかった。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
中嶋一貴	36	P13 1:27.521	P14 1:38.627	
ジェームス・ロシター	37	P16 1:27.631		

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温 23-22度C	路面 33-31度C

中嶋一貴 (36号車ドライバー)



「金曜と今日のフリー走行は、セットアップが全く合わない状況でした。ジェームスがまあ好調だったのでそのセットアップを導入させてもらったら予選でようやくマシンの調子が良くなり、まずは、Q1 をクリアすることができました。ソフトタイヤでコースインした Q2 では、最初のアタックでちょっと失敗してしまい、再アタックしましたが、第 3 セクターの連続コーナーで縁石に乗り過ぎてしまってスピンしてしまいました。それがなかったら Q3 に進出できたかな・・・」

ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)



「ソフトタイヤでの感触は良いのだけれど、メディアムタイヤでは、ちょっと苦しい状況になってしまった。その上シフトダウンの時にミスしてしまい、タイムを出すことができなかった。もし Q1 を突破できて、ソフトタイヤを履けていたのなら展開は異なっていたのだけれど。開幕戦と同じ後方からのスタートとなるので厳しい決勝となる。ポイントゲットを目標に追いたい」

小枝 正樹 (36号車エンジニア)



「ジェームスのセットアップを参考にして変更したところ、良くなりました。スピンをするまで各セクションはベストタイムをマークできていたので Q3 進出への可能性はあったと思います。決勝は天候が気になりますが、ウエットになった場合には直前のフリー走行がセットアップのためにとっても重要になりますね」

東條 力 (37号車エンジニア)



「メディアムタイヤでのセットアップをまとめきれしていない部分と、ドライバーが乗れていない部分。それにプラスしてシフトミス。いろいろな要素が積み重なってしまって、2 戦連続して Q1 敗退という結果です、残念ですね。明日は、天候も心配でウエットになる可能性もあるので、朝のフリー走行が重要になってきますね」

館 信秀 (チーム監督)



「開幕戦の鈴鹿、そしてここオートポリスと望むべく結果を残すことができていない。2 スペックのタイヤの両方をうまく使いこなせていないようだ。しかしながら、そのような状況においてもタイムを出しているチーム、ドライバーがいるわけであるから、いち早くわれわれもライバルに追いつかないといけない。決勝では少なくともポイントをゲットしたい」

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦
オートポリス
2018年5月13日

決勝

観客: 4,750人

天候: 雨/濃霧

九州のオートポリスで開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦の決勝レースは、濃霧と雨によって大幅にスケジュールが乱れ、そして、スタート予定時刻が近づくにつれて雨脚が強くなったため、競技の安全性を考慮して中止が決定された。



- 九州、阿蘇山の外輪山に位置するオートポリスは、前日夜から雨が降り、早朝からは濃い霧に包まれていた。
- 予定されていた午前中のフリー走行は、コースのオブザベーションポスト間が互いに視認できないほどの濃霧となり、運営上危険なためにキャンセルされた。
- 霧が晴れて、午後1時20分から20分間のフリー走行がリスケジュールされたが、開始10分後には、再び雨がだんだんと強まり、雨量が安全に走行できない状況となったためにセッションは中断。
- 各チームの監督が召集されて、主催者、オーガナイザー、競技運営団とともに大会運営について協議が行われた。
- 予報、雨雲レーダーによると、今後の天候回復は望めなかったため、午後2時15分に決勝レースの中止が決定された。

館 信秀 (チーム監督)

「国内最高峰フォーミュラレースの競技運営に関して、安全を重視して今回の決勝レースの中止を決定したことを支持します。しかしながら、サーキットに足を運んでいただいた多くのレースファンの皆さんに、決勝をお見せすることができずに本当に申し訳なく思います。自然の気象状況は、なんとも難しいことをご理解いただきたいと思います。わがチームの第2戦予選結果は、思わしくなく、決勝に出走してもポイントゲットすることも難しい状況だったので、これを恵みの雨とポジティブにとらえて、次戦へ向けて再度チーム一丸となって邁進します。これからもサポート、応援宜しくお願い申し上げます」



※次戦は、5月26-27日に、宮城県のスポーツランドSUGOにて、シリーズ第3戦が開催されます。